

檀信徒・霊園使用者各位に発行しています。

お盆がやっつきます

春の日差しにうつらうつら過ごしていたら、気がついたらもうお盆の時期になっていました。光陰矢のごとし、軽んずべからず、です。

通販サイトで、小学生の時に愛読した本を見つけてきました。子供たちに読ませようと購入しましたが、自分で読み耽っていました。懐かしい本を読んでいると、当時のことが思い出されます。ボクは大人になつたらどんな人間になつてゐるのだろうか、

そんなかわいい少年でありました。あれから30年。こんなになつちやいましてすいません、と小学生の自分に謝りたい気持ちです。30年と言わず、ついこの間、悲しいお葬式をしたのに、気がついたらお盆、あれ一周忌三回忌。そう思うことがあるかもしれません。しばらくぶりにご先祖様としてお帰りになるお盆会。できれば、元気で健やかな姿をお見せしたい物です。

お盆の精霊棚の飾り付け一例です。ご参考にしてください。



- ① テーブルにマコモを敷く
- ② 四方に笹を立て麻縄で結ぶ
- ③ 位牌香炉燭台花等を飾る
- ④ 茄子や胡瓜で馬と牛を作る
- ⑤ 蓮葉に夏野菜の粗みじん切りと生米を乗せる「水の子（みずのこ）」、椀に清水を満たした「関加水（あかみず）」を供える
- ⑥ 膳をつくり供える
- ⑦ その他、そのめん、果物など夏の食物を供えください。お盆セットがスーパーなどで売っていますが、詳しくは住職までお気軽にお問い合わせください！

法話のコーナー

冷暖自知

情報や方法では、本当の安心（あんじん）にはならない。

夜、寺務仕事の合間にニュース番組をハシゴしてみますが、同じニュースでも各局各番組によって、解説の仕方がずいぶん違うものだなあと思えます。政治経済から事件事故、パンダの赤ちゃんまで、どの番組を見るかによつて、物事に対しての見方が影響される訳で、インターネットの情報まで含めると、どれを信じ、どれを疑えばいいのかからなくなつてしまいます。情報過多社会と言うそうです。情報が、これからは、巷にあふれるいろんな情報を自分で選んで行く必要があるそうです。本当に大事な情報を見分ける能力が求められるというので、テレビを見るだけなのになんだか緊張してしまいますね。

意外かもしれませんが、自己の問題の解決のためにお釈迦様は決定的な答えは教えてくれません。自分で「苦を見つめ、苦を考えよ」。目をそらさずに、真摯に自己の問題と向き合え、逃げるな、騒ぐな、じつと坐つて、考えるのだ。そうおっしゃるのみなのです。その考えるための方法が、「坐禅」なのです。足をしっかりと組み、姿勢を正して安定して坐る。そうすることで理想的な「考え事」をする形ができあがりま

ふと、坐禅堂の外から、鳥のさえずりが聞こえてきました。あれ、鳥なんていたのか、全然気がつかなかった。そう思いました。居なかつたわけはないのです。鳥はずつと近くで鳴いていた、それが耳に入ってきていなかったと言うだけです。そのとき、気がついたのです。私が悩もうが苦しもうが、そんなことはお構いなしに、世間は動いている。いままで自分の心は世の中とは違う、特別な物だと思いついてきた。私が居るから世界があるのだと、どこかでそう思っていた。そうではなかった、私はその中の一部であつただ、世界が自然に動いているように私も自然にここに居るのだ。

に読んだ本に「他人によく思われたいと思うことが煩惱の始まりだ」と書いてありました。それを私は知っていました。知ってはいいたが、まさしくそういう生き方をしていました。自身で坐禅して、自分自身が気がついたからこそ、やつとその本の言葉が、心の底から理解できたのです。入門してから約8ヶ月目にして、やつと本物の修行の入り口に立つたのでした。

そう気がついたとき、体中の力ががくつと抜けたような気がしました。体中に満々の力を込めて坐っていたので、座布からバタツと落ちそうになりました。居眠りしてると思われて、警察で叩かれましたが、心の中は笑い出しそうになっていました。いままでなんと格好つけて、意地を張って、生きてきたことだったか、そんなに無理しなくてもよかつたのに。ああ、楽になつた、と思えました。みんなによく思われたい、好かれたい、スゴイと言われたい、そういう心がずつとありました。大学時代

「冷暖自知（れいだんじち）」といひます。この水は冷たいよ、暖かいよ、と誰かに言われても、自分で触つてみなければ、本当に冷たいのか、どのくらい暖かいのかは決してわかりません。テレビや新聞は盛んに「これは甘いよ、これは辛いよ」と情報を与え続けて居ます。しかしニュースの本当のところは、自分の目で見、聞き、自身で体験するまで、わかりはしないのです。どこかの誰かの主張を聞いただけで、一方的に判断せず、世の中のことに關して「冷暖自知」できる機会があるまでは、予断はせずに、態度は一時保留。そういう見方をしてもいいのではないかと思ひます。



コラム

仏事に関するよもやまばなし



お釈迦様のお葬式をどうするか。当時はもめにもめたようです。たぐさんの弟子たち、家族、親戚。それに信者たち。信者には王族もいれば貧者もいる。盛大に、いや質素に、こうしたいあーしたい。みんなお釈迦様を心から敬愛していましたから、その心意気を示したくて仕方が無いのです。結局お釈迦様の御遺言「当たり前にせよ」で決着しました。

この場合の当たり前は「インド式武家の葬送儀礼」を指します。お釈迦様は御武家の出でずからそれが当たり前であったのです。この葬送儀礼にあつたのが鎖籠（さがん）という作法。遺体を入れた棺を鎖で閉じる儀式です。今では、鎖の代わりに釘を用い、釘打ちを鎖籠、と言っています。この「釘打ち（鎖籠）」が、省略される場面をよく見るようになりまし

た。葬儀に出かけると、さちんと釘打ち鎖籠を行う事の方が少ないかもしれません。残念なことだと思えます。ある葬儀の折り、驚いたことがあります。担当する葬儀社は俳優さんを用いたテレビCMで有名な葬儀屋さん。曰く、お葬式のプロがお手伝いいたします、云々。式前の進行を決める打ち合わせの時、なんとなく「釘打ちは予定に入っていないですか？」と聞いてみました。「いえ、特に」。そこで「特段の理由がないなら、釘打ちも大事な儀式ですから、きちんとやっ

てくださいます」とお願いしました。通常釘打ち鎖籠は、葬儀社の担当者が、釘を棺に半分程度までうち、その後参列者で、すこしづつ打ち込んでいきます。私はその間は「往生呪」というお経を唱えています。担当者の協力は欠かせません。しかし私のお願いに、進行役の担当者がモジモジ。「じつはやったことがあります。せん」。びっくりしました。葬儀の進行まで任せられる人が、釘打ち鎖籠をやったことがないなんて。最近ではほとんど皆さん省略されるので・・・と言いますが、それにしても、葬儀のプロを自任する人が「やったことない」なんてあまりにもお粗末。とても葬儀のプロとはいえない。看板にいつわりアリです。その担当者は釘打ちの意味も知らなかつたようで、その場で説明すると、「そうなんですか」ですつて。こんなところでも、「ちゃんとした葬儀屋さん」と「そうでない葬儀業者」の違いがわかるものです。その葬儀では、担当者に替わって私が釘打ち鎖籠を

我が輩は猫である。名前は・・決まっていな。オクサンと下の子たちは「ニャーさん」と呼び、オバアチャンと上のお姉さんは毛並みの色からシルバーと呼ぶ。先代とは黙って見つめ合う。住職は私の顔を見ると「にゃあ」と猫語で話しかけてくるので仕方がなしに「にゃあ」と返事をする。日中は境内をパトロールしているのを見かけたら、好きな名前ですんでくれた



して、無事出棺しました。仏式の葬儀は基本的に

お釈迦様の行われた葬儀式と同じ方法をとります。それが仏教徒にとつて死者への最高のはなむけになるからです。亡き人へ、最高の礼節をつくし、最大の敬愛をもつてお送りするために、大恩教主釈迦牟尼と同じ儀礼を行うのです。訳も知らずに勝手に省略なんて、言語道断というもの。確かに釘を打つのが乱暴に

それは思い違いです。丁寧な葬儀に、棺のふたを「閉じて差し上げる」のです。たしかに一昔前に比べ

{せ} あいうえお用語辞典 (ぜん)

私たち、禅宗。お釈迦様がお悟りになるために用いたのが坐禅。立ってたら疲れるし寝そべると眠っちゃう。だから静かに坐って考える。流行の

インドフルネスとは全然違う。自分の心の事、他者との関わり、どうやって生きるか、どうやって死ぬか。「自分で考える」のが禅。

お知らせ

この「宝泉寺報」は、霊園使用者の方、檀信徒の方々にお配りしておりますが、最近、親戚や、子供の家にも送ってほしいというご要望がありました。

そこで、ご希望があれば各家のお施主さん以外の方にもお送りしたいと思います。送ってあげたい人の名前、住所、ご自身との関係(子、孫、友人など)を添えて、HP、メール、FAX、お手紙などでご連絡ください。〒193-0944 東京都八王子市館町344 宝泉寺 TEL/FAX 042-661-3353 info@housenji.net

宝泉寺墓地使用規則について

宝泉寺八王子南霊園が開園してから40年以上経ちました。代替わりをなさつた方も多く、墓地の使用規則をよくご存じない方もいらっしゃるようです。使用規則は、お互いに気持ちよくお墓参りや、墓地の継承を行うには、なくてはならない決まりごとです。そこで近々、改めて使用規則を作成し、配布いたしたいと思っています。内容は従前のものと変わりませんが、時代背景を考慮した物にしたいと思っています。何とぞよろしくご理解を頂きたいと思

住所変更、名義変更のお願い

墓地の名義変更やお引っ越し、また郵便物の郵送先を変更したい方は必ず管理事務所に申し出て、名義変更届、重祚変更届を提出してください。大切なお知らせが届かないことがあります。よろしくお願いたします。



著者、勝平宗徹老師は、大本山南禅寺元管長にして、昭和40、50年代に南禅寺専門道場のお師家様(指導者)であつたお方です。当山宝泉寺の山号額を書いてくださった老師様です。松江で過ごされた小僧時代から、修業時代を経て指導者になるまでの半生記ですが、残された著作はこの一冊だけ。能筆で謹厳なお方で有名でした。普段親しく口をきくことのできな

オススメ図書 「たぐあん石の悟り」

霊園管理事務所から 霊園だより 梅雨に入りじめじめとした日が続きますが皆様いかがお過ごしでしょうか。まもなくお盆がやつて参ります。お花・お線香をご用意して皆様の墓参をお待ち申し上げております。是非ご利用ください。また墓参りに気になつた外柵のズレや目地の欠けなどの修理、落ちにくい水垢掃除、墓地香の事などありましたら管理事務所にお問い合わせください。もちろんお見積もりだけでも結構です。のでお気軽にどうぞ。 畑山